

■MLF Japan Shore Attack Pro League ルール

<エントリーおよび参加資格>

- 18歳以上で、法令およびローカルルールを遵守する者に出場資格を与える。
- エントリーを受付後、オフィシャルと選手の個別面接を実施する場合もある。
- すべての出場選手は「スマートスケール」および「スマートレスキュー」アプリを自身のスマートフォンにインストールし、登録を完了すること。また登録名は本名、ニックネームは本名を英語表記で行うこと。
- 出場選手は円滑かつ効率的なコミュニケーションを確保するため、携帯電話番号とメールアドレスをオフィシャルに提供する。登録情報に変更が生じた際は、速やかに報告すること。
- イベントで撮影されたすべての写真および動画は MLF Japan に帰属する。またイベント中、カメラマンまたは固定カメラによる撮影を行う。撮影された素材は MLF Japan のライブ配信、ウェブサイト、SNS 各種、および印刷物などに使用する。
- イベントではライブ配信を実施する（一部、外部業者に委託する場合もある）。したがって選手個人によるライブ配信はこれを認めない。また、YouTube 等 SNS 用動画の撮影を行いたい場合は、事前にオフィシャルの承諾を得ること。
- すべての出場選手は MLF Japan オフィシャルが定めたルールを理解し、遵守することを示す誓約書（エントリーシート裏面）に署名すること。

MLF Japan Shore Attack League Entry Sheet	
Name	Mobile Phone
Car Type	Car Model
Tackle Check	
自動車運転免許証	スマートスケールアプリ
自動車検査証	スマートレスキューアプリ
新利根漁協遊漁券	
左右側方にレ点でチェックする。該当しない項目には斜線を入れる。	
トーナメントアングラーの誓い	
私は Major League Fishing Japan が主催するイベントに出場するにあたり、以下の事項を遵守します。	
・主催、運営団体の定めるレギュレーションを遵守し、いかなる不正も行いません。	
・健全かつ公正なトーナメント運営のため、他人の不正も見逃さず報告するとともに、疑惑の有る行為についても積極的な情報提供を行います。	
・フェアな環境下で釣果を開い合うイベント本旨に従い、他メンバーに不当な要請をしません。	
・アングラーの共通資源であるフィールドを守るために環境保護およびバスの保護（生体保護）に努めます。	
・レギュレーションの適用や上記の各事項に関して当事者間での疑惑が生じた場合には、主催団体の裁定に服します。	
本誓約に反し、違反行為などが認められた場合には、当該違反が判明したイベントに限らず、MLF Japan のすべてのイベントで得た賞金全額を直ちに返金します。また、違反内容によっては、刑事訴追や別途の損害賠償請求を受ける可能性があることも十分に理解して、本イベントに参加します。	
年 月 日	
(自署) _____	

エントリーシート

<スポーツマンシップ>

- スポーツマンシップとは、MLF Japan のイベントに出場する選手、または一般のアングラー（非競技者）、オフィシャル、スポンサー企業などに対する攻撃的、あるいは敵対的な行動、および個人に対する冒涜的な言動を指す。著しいスポーツマンシップ違反が現認された選手は出場資格を剥奪する場合がある。
- 競技時間中、本イベントに参加している選手であることが認識できるよう、トーナメントジャージの着用を必須とする。
- 魚の保護と保全は最優先事項とする。キャッチしたバスについても、無闇に抜き上げない、地面に直に置かないなどの配慮を常に行うこと。
- MLF Japan はオフィシャル、スポンサー、ギャラリーおよび漁業関係者に不利な影響を与える行為の一切を容認しない。
- MLF Japan に所属する選手はスポーツマンシップに則り、ルールとマナーの遵守、および安全第一と環境保護の精神をもってイベントに出場すること。
- 自転車、オートバイ、車での移動を可とするが、安全第一に努め法令を必ず遵守すること。また自動車およびバイクを利用する選手は運転免許証と自動車検査証を提示すること。
- 駐車する際は他の車両の通行の妨げにならない場所を選び、十分な配慮を行うこと。
- プラクティスおよび競技時間中のアルコールまたは薬物の摂取は厳禁（ただし市販薬、または医師の処方箋による薬剤は可）。
- 他の団体から課せられた失格、出場停止、または懲戒処分の内容によっては、MLF Japan が主催するイベントへの出場を認めない場合もある。
- 健全かつ公正なイベント運営のため、他人の不正も見逃さず報告すること。抗議や規則違反の疑いは帰着後 30 分以内にオフィシャルに申し出ること。
- トーナメント水域における GPS ポイントや魚の位置特定など、釣果につながる情報の購入（物品提供を含む）とガイドサービスの利用は、各イベントのエントリー締め切り以降、禁止する。
- 競技に参加していない一般アングラーがスポットを確保し、選手が来た際に入れ替わる行為（事前の場所取り、マーカーの利用を含む）を禁止する。
- 会場内での喫煙は指定された場所のみとし、歩行喫煙は禁止する。

<エントリー方法>

- ① スマートスケールアプリとスマートレスキューAPIを自身のスマートフォンにインストールする。
- ② インストール後、それぞれ必要事項をすべて記載し登録する。

■注意

- ・画像は必ず上半身、トーナメントジャージ着用、偏光グラスなしのもので登録
- ・ニックネームは本名を英語表記
例) 大山太郎 → Taro Oyama

- ③ 入会金、年会費をスマートスケールアプリより決済する。

※必ず入会金および年会費は期日までに決済を行うこと

※エントリー期間は 2025 年 12 月 16 日～2026 年 2 月 28 日までとする

<各イベントへのエントリー>

- ① スマートスケールから、当該イベントにエントリーする。
- ② エントリーフィーをクレジット決済する。

<連絡事項>

- ◆ オフィシャルからの連絡事項は、スマートスケールアプリから発信するため、こまめに確認すること。

<エントリーフィー>

- ◆ MLF Japan Shore Attack Pro League に出場する選手は下記のエントリーフィーを支払わなくてはならない。
 - 入会金：¥44,000
 - 年会費：¥33,000
 - エントリーフィー：¥11,000 / 2 日
 - ※金額は消費税込み。
- ◆ 入会金および年会費は「Smart Scale」アプリからの一括での決済とするが、各イベントのエントリーフィーはそれぞれ指定した期日までの決済も可とする（一括での決済も可）。
- ◆ イベント当日、スマートレスキューアプリの「1day プラン」に加入し、端末の GPS 位置情報は「ON」にしておくこと。また競技開始時に「湖上に出る」をタップし、トラッキングを開始すること。

<MLF Japan イベント開催時>

- ◆ タックルチェック
 - 受付前に、タックルチェックを実施する。所定の用紙（エントリーシート）に必要事項を記載し、裏面の誓約書に自署のうえオフィシャルに提出すること。不備があった場合はペナルティを課す。
 - イベント出場時は必ずライフジャケットを着用すること。
- ◆ 受付
 - 混雑を避けるため、速やかに受付を済ませること。
 - 受付ではスマートスケールの QR コード読み込みを行う。
 - エントリーシートを提出する。
 - アクションカメラを受け取る。
- ◆ ミーティング
 - 規定の時間にミーティングを行う。ミーティング時は必ず、トーナメントジャージを着用して出席すること（雨天時および極寒時はジャケットの着用を認める）。
 - ミーティングではルールやエリアなどの説明および質疑応答を行う。
- ◆ スタート
 - スタートは徒歩、自転車、バイク、車の順で行う。なお、徒歩選手スタートから 10 分間隔で自転車、バイク、車の順にスタートする。車のスタートは事故防止の観点から、抽選によりスタート順を決定する。
 - 他の選手と同方向に進んでいる場合、先行している選手が優先となる。追い越しは禁止。
- ◆ 帰着
 - 帰着時は混雑が予想されるため、余裕をもって戻ること。
 - 帰着はスマートスケールの QR コード読み込みをもって完了とする。規定の時間内に読み込みをしなかった場合、帰着は完了していても失格・スコア取り消しとなるため注意。
 - 表彰式の時間はオフィシャルよりアナウンスする。時間厳守で出席すること。またこの際も、必ずトーナメントジャージを着用すること。

<イベントルール>

- プラクティスは日の出から日の入りまでとする。
- イベント開催前日はオフリミットとし、競技エリア内での情報収集および釣りを禁止する。
- MLF Japan に出場する選手は、トーナメントジャージの着用を必須とする。トーナメントジャージには MLF Japan が規定する 2 種のロゴを規定サイズに則って掲出すること。掲出は右胸、または左胸とする。



MLF Japan ロゴ



Shore Attack Pro League ロゴ

- トーナメントジャージ作成時にロゴデータが必要な際は、オフィシャルに依頼すること。ただし作成業者への送付とし、個人への支給は認めない。
- イベントのスコアは各日 3 匹までのバスのウエイトとし、2 日間の合計で競う。
- 年間ランキング (Angler of the Year) は、全 4 戦の総重量によって決める。
- 出場選手は他の選手による規則違反の疑いがある場合、速やかにオフィシャルに報告すること。
- キャッチしたバスは必ずその場で 3 分以内にデジタルスケールによる計測を行い、10 分以内に「スマートスケール」による申請を完了すること。承認が完了するまで、バスは水につけておくなどのケアを慎重に行うこと。
- イベント中に緊急事態が発生した際は、オフィシャルに連絡したうえで対処を行うこと。また状況に応じて、海上保安庁 118 にも速やかに通報すること。
- 荒天予報時のイベント開催について、当日 7:00am 時点の美浦村大山を基準とし、天気予報アプリ各種を総合的に参考にして、オフィシャルで協議のうえ開催の可否を決定する。なお、Day2 開催日の予報で天候が回復することが予想される場合、期間短縮による開催とする場合もある。※台風などの影響で警報が発令されている場合は前日に開催の中止を決定することもある。
- 急な天候の変化によってオフィシャルが危険と判断した場合、競技時間を短縮する場合もある。また荒天の際は無闇に動かず、身の安全を最優先すること。
- 霞ヶ浦、北浦、利根川水系を守るための活動の一環として、遊漁承認証の購入を義務付

ける。なお、バスプロサポート事務所（霞ヶ浦トーナメントプレイス）で当日購入することも可能だが、その場合は前日までの連絡を必須とする。

- 競技時間中、体調不良等による棄権となった際は、その時点でのスコアを成績とする。
- 交通トラブル等により競技続行不可能となった場合は失格とする。
- 競技中のスマートフォンの仕様は緊急連絡時以外、禁止する。

<競技ルール>

- 不正防止と、出場選手の安全をサポートするという観点から、「スマートレスキュー」アプリのダウンロードおよび登録も必須とする。なお、位置情報は必ず「ON」で設定すること。
- オフィシャルから貸与されたアクションカメラによる撮影を必須とする。キャストからフッキング、ファイト、ランディングまでの一連が撮影されていることを絶対条件とし、もし撮れていなかった場合は自己責任のもと、当該フィッシュのスコアを認めない、順位の繰り下げなどの措置をとる場合もある。
- 対象魚はブラックバス（ラージマウスバス）のみ。
- ランディングネットの使用を認める。
- 資源保護の観点から、スコアブルバス（※キーパーサイズ）は300g以上とする。
- イベントではその日に釣ったバス3匹までの重量で順位が決まる。
- 釣り方はルアーに限り、フライおよびエサの使用は認めない。
- アラバマリグについて、ワイヤーは5本まで、フックはシングルトレブルを問わず3本までとする（別紙参照）。
- 一度に使用できるロッドは1本とする。ただしスタックしたルアーを回収する前に、異なるロッドを使用することはこれを認める。もし、スタックを回収する前のルアーでバスが釣れた場合、その魚はスコアの対象としない。
- ウェーディングなど、入水しての釣りは禁止。
- 他の釣り人や湖川利用者に迷惑をかける行為および危険行為は厳禁。クレームなどの通報や他選手からの報告があった場合、事情を聴取したうえで処遇について運営本部で協議し、不問またはペナルティーを決定する。
- 魚への細工は厳禁。不正行為が発覚した場合、永久追放とする。またこの場合、過去に獲得した賞金を全額返金する。なお、年利4%の利息を付加する。
- サイトフィッシングによってキャッチしたバスは、口の中にフックが掛かっていることを前提とする。

<検量>

- MLF Japan イベントにおいて、スコアブルバスは 300g 以上とし、その重量未満のバスはスコアとして認めない。
- MLF Japan イベントはデジタルウエイインとし、スコア集計は「Smart Scale」アプリを使用する。そのため、参加選手は自身のスマートフォンに当該アプリのインストールおよび登録を必須とする。また登録の際、ニックネームではなく本名の英語表記を原則とする。

例) 大山太郎 → Taro Oyama

- Smart Scale に登録する本人画像は上半身、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 検量の際、バスはフックを外した状態で行うこと。
- 検量で使用するデジタルスケールは持ち上げた状態で電源を入れ、魚を吊るす前にゼロが表示されていることをアクションカメラに 5 秒以上見せること。また、検量に関する一連の動作は必ずカメラの前で、映像で確認できるように行うこと。
- 検量はデジタルスケールにバスを吊るし、宙に浮いていることがわかる状態で、スコア（重量）がはっきりとわかる写真を撮影する（①）。さらに規定のメジャーを使用して、魚の全長がわかる写真を撮影する（②）。最後に釣った本人がバスを持っている写真を撮影する（③）。この撮影は基本的にペアの選手（ボーター選手が釣った場合はコ・アングラー選手、またはその逆）が行う。釣った本人は①～③の画像を「スマートスケール」アプリで申請する。
- デジタルスケールにバスを吊るしたあと、魚体に触れるることは如何なる理由があっても厳禁とし、やむをえず触れた場合は最初からやり直すこと。
- デジタルスケールは、必ず本体上部にある取手部分を掴むこと。本体側面を持った状態での撮影はこれを認めない（下図参照）。



- アプリの立ち上げや計測するまでの間、魚を保護するという観点からランディングネット

トに入れて水につけるなど、一時的にキープする。また、その魚はスマートスケールの申請が承認されてからリリースすること。

- 撮影中、バスがデジタルスケールから外れて護岸など高温の地面に落ちることのないよう、草の上やあらかじめ地面を濡らしておくなどの配慮をしたうえで一連の行動をとること。
- オフィシャルからの承認が得られるまで、釣ったバスは水につけておくなどの配慮を行うこと。承認が届き次第、当該バスはその場で速やかにリリースすること。
- リリースする際は水面まで 30cm 以内の高さから行うこと。バスをひっくり返したり、投げたりする行為はリリース違反とし、ペナルティの対象とする。

<成績について>

- MLF Japan 全戦において、スコアブルバスは 300g 以上、バaggリミット 3 匹の総重量によって争い、5 位までを表彰対象とする。

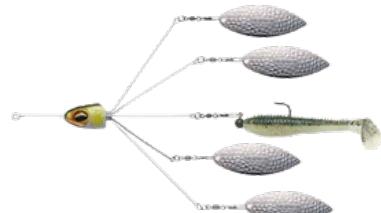
<エリアについて>

- 先行者がいる場合、競技参加者および一般の釣り人に関わらず、必ずひと声かけること。
もし、入ることを断られた場合は、速やかに移動すること。
- 霞ヶ浦全域、北浦全域とする。支流および流入河川は本湖から見て 1 本目の橋までとする。
- 水門を隔ててつながる水路は禁止。ただし水門内へのキャストはこれを認める。
- 4月15日から6月15日まで、すべての粗朶消波工（通称：木ジャカ）の内側は釣りおよび進入禁止エリアとする。

【禁止エリア】

- 横利根川全域
- 与田浦
- 新利根川
- ドック
- 保護水面
- 自治体などにより定められた立ち入り禁止エリア
- 流入河川および支流の、本湖から見て 1 本目の橋より上流域

<アラバマリグ・使用OKのセッティング例>



ワイヤー 5 本
ブレード 4 枚
フック 1 本



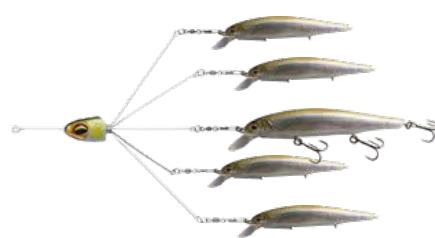
ワイヤー 5 本
ブレード 2 枚
フック 3 本



ワイヤー 5 本
ワーム 5 本
フック 1 本



ワイヤー 5 本
ブレード 4 枚
ハードベイト 1 個
フック 3 本



ワイヤー 5 本
ハードベイト 5 個
フック 3 本

事項	ペナルティー	備考
スポーツマンシップ違反	失格・出場資格剥奪	申告があった場合はマイナス 500g
トーナメントジャージ未着用	失格	
バスを大切に扱わない行動違反	マイナス 500g	
他者に不利な影響を与える行為	失格	
アルコールまたは薬物の摂取	失格	
エントリーシートの記載漏れ	マイナス 500g	
ライフジャケット不備	失格	
受付の遅刻	マイナス 500g	所定の時間内に完了しなかったとき
ミーティングへの遅刻	マイナス 500g	
ミーティングの欠席	マイナス 1000g	
スタートの遅刻（30 分以内）	マイナス 1000g	
スタートの遅刻（30 分以上）	失格	
帰着遅れ（10 分以内）	マイナス 1000g	
帰着遅れ（15 分以上）	失格	
表彰式の欠席	失格	やむを得ない事情の際、オフィシャルへ申告
使用ルアー違反	失格	
他者への危険行為	失格	事情聴取のうえ、不間に付す場合もある
バスへの細工	失格・永久追放	過去の獲得賞金を年利 4%の利息とともに返金
バスの雑な取り扱い	失格	
リリース違反	マイナス 500g	
デジタルスケールの紛失	マイナス 500g	再購入に際する費用は実費請求
アクションカメラの紛失	失格	再購入に際する費用は実費請求
撮影不備	当該魚を承認しない	撮影されていなかった場合、その魚を認めない
禁止エリアでの釣り	失格	

※初回の違反については警告。2回目の違反からペナルティーを適用する。

2025 年 12 月 8 日版